

評価報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ;	
1. 一人ひとりの把握	<u>6</u>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画(1
見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源と	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
	合計 30

訪問調査日 平成 19年 7月 6日
 調査実施の時間 開始 9 時 50分 ~ 終了 15時 30分
 訪問先事業所名 グループホームはるかぜ
 (都道府県) 鹿児島県
 評価調査員の氏名 氏名: 安徳 ケイ子 氏名: 福 崎 順子

事業所側対応者
 職名 管理者
 氏名 大津和子
 ヒアリングを行った職員 (4)名

項目番号について

外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価報告概要表

作成日 2007年7月17日

【評価実施概要】

事業所番号	4670102047
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ
所在地	〒890-0032 鹿児島市西陵六丁目21番21号 (電話) 099-283-0991
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	〒890-0056 鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成19年7月6日

【情報提供票より】(平成19年 5月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 4月 7日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数(1階)	8 人 常勤 4人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.0 人
職員数(2階)	8 人 常勤 4人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.0 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年5月31日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 89歳	最低	83歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上記念病院 西陵歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは団地の商店近くに建ち、バス停が近くにあつて、利用者は窓越しに通りの人々と挨拶を交わしたり、母親に抱かれた赤ちゃんをあやす地域との交流もあり、和やかに時を過ごしていらっしゃる情景が印象的であつた。管理者・職員は家庭的雰囲気の中で利用者の思いをきちんと受け止める関わりを大事に、グループホーム全員が家庭的な生活する事をモットーとしている。常に家族や地域との連携を大切にしながら、利用者の安全とその人らしい生活を支えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で脱衣場に保管されている洗剤について安全面において指摘され、改善した。(外から中味が見えない保管ボックス使用)
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員全員で取り組み、初心に帰る機会を与えてもらっている。情報公開することで、気づきもある。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	利用者代表・家族代表・地域住民代表に対してホームの概要を説明し、グループホームの役割・認知症について理解を深めてもらう機会としている。出席者には秘密保持に関する同意書ももらっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見・苦情等の対応方法として、玄関口に意見箱をおいているが活用されていない為、面会時に直接、聞く体制をとっている。今後は系列のグループホーム全事業所においてアンケート調査を実施し、細かく対応していく取組みを検討中である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域に対して事務所の果たそうとしていること、果たしている役割を説明し、利用者が地域で暮らし続ける為の基礎作りを行っている。運営推進会議の効果として地域との連携がさらに深まりつつある。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員に管理者が口頭で説明確認し、従来の理念を基に地域生活の継続と支援を強化する理念になっている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のサービスの提供場面において理念が反映されるよう、お互いが注意し合っ、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が地域で暮らし続けるための基礎作り(自治会に参加・地域ふれあい教室)が、できている。夏まつりには駐車場を提供する等、地元の人々との交流ができている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己・外部評価に全員で取り組み、具体的に改善計画を立てて、向上・質確保につなげている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在まで、3回実施されている。まだグループホームの認識の度合いが低いので、この会議を通してグループホームの目的や実際のサービスを説明し、理解してもらうことに力を注いでいる。また、会議の内容に指体操のレクリエーションをいれて楽しんで出席いただけるよう工夫し、好評を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所からの積極的な情報提供があり、市町村とともにサービス共有ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況を随時、電話や面会時に報告している。金銭管理はお小遣い帳に記入し、家族にサインをもらっている。月1回(はるかぜメール)を発行している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年、2～3回の家族交流会を開催している。家族の面会時にも直接話を聴いて運営に反映させている。又、玄関口に意見箱も設置してある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限におさえている。代わる場合は利用者へのダメージを防ぐための努力を怠っていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画がある。研修には機会を作って職員は交互に積極的に参加している。職場内研修も月、1回行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人系の管理者会議は月1回実施されている。隣接するグループホームと交流し、情報交換や音楽ボランティアなど、お互いのレベルアップに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際は必ず事前に見学してもらい、安心できるように配慮している。又、同町内の職員がいるので共通話題などを提供し、馴染めるように工夫している。病院からの入居の際は事前に面会する取り組みもしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族の話題や地域の出来事を含めた話題を多くするよう努めて本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活レク(掃除・洗濯ものたたみ)時に本人の意向や希望を聞く機会をもうけている。日々の行動や表情から利用者の希望や思いを汲み取り、記録に残し職員間の共有化を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや家族の意向を聞き、職員全員の意見を取り入れた介護計画を作成している。		利用者の視点に立って地域でその人らしく暮らし続ける為に必要な支援を盛り込んだ介護計画作成にも期待したい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にもモニタリングを行い、検討した上で現状に即した介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診・早期退院支援・医療処置を受けながらの生活の継続など柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週、1回バイタルチェックの報告を行い、定期的受診ができています。他科受診は家族に依頼し、結果は管理者が電話で直接確認している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医・家族と相談した上で、重度化した場合や終末期の対応体制の共有ができています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保や羞恥心への配慮など研修やミーティングを通じて徹底している。 個人情報の管理についても配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、その日の一人ひとりのペースに合った希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいものを献立に取り入れ、個々の力を活かしながら下準備・盛り付け・片付け・台拭き等を職員と共に行い、音楽を聴きながら又、会話しながら楽しく食事されている。家族からの旬の食材の差し入れも多い。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	車椅子でも入れる広いスペースの風呂場である。温泉でゆっくりと個人浴を楽しんだり、仲よし利用者同士の入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年間行事計画で季節感を味わえる木市や花見に出かけている。ふるさと訪問をかねて利用者の家を見たり、墓参りをしている。得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的に散歩や買い物に出かけている。希望を聞いて車で遠方にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室・玄関は鍵をかけていない。玄関にはチャイムがあり、人の移動が分かるようになっている。今は見守りも重視している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回火災訓練を行っている。地域の協力体制については運営推進会議で呼びかけている。非常用防災頭巾も準備されている。		日常的に地域からの結び付きや支援がほしい。地震・災害等の避難訓練や非常用食料の備蓄も望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェック表に記載されている。医師の指示により、一人ひとりの状態に合った食事・水分量確保の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースが広くゆったり感がある。油絵や季節に合った装飾があり、居心地よく過ごせる工夫ができています。共用空間には椅子・ソファが置いてあり、窓越しに住民との対面ができて挨拶がかわされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みや家族の希望を聞き、仏壇や植物を置いて心地よく過ごせる個性あふれる居室になっている。		